

文部科学大臣賞

ヴァイオリンソナタ第1番「雨の歌」の数学的分析から見る
作曲者ブラームスの心象風景

千葉県 千葉大学教育学部附属中学校 1年 横内 敬文

講 評

ヴァイオリンソナタの名曲「雨の音」の楽譜に対してその数学表現を導き、作曲者ブラームスの創作時の心象風景をバイオリン奏者である受賞者自身の演奏音源データと気象(降雨量)観測データの類似性に着目して読み解いた作品です。楽譜のデジタル表現に対して音域に加えてテンポ表現を組み合わせる必要性を説き、その方法を独自に考案した点に加え、作曲時の降雨状況をデータによって再現し心象風景を語るなど、数学を使ったストーリー展開力は高く評価できます。文部科学大臣賞にふさわしい優れた作品です。

中央審査委員会